

## 平成24年度 第3回CCC国際関係学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年7月2日（月）10：00～12：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：林委員 佐渡友委員 多賀委員

（事務局）井端事務局長 森下主幹 松本職員

### IV. 議事概要

学士力実現に求められる教育改善モデルの検討

教育改善モデル実現に求められる教育力

昨年度まとめた国際関係学教員の教育改善モデル（その1）（その2）について、教員がどのような教育力を身につけていないと実現できないかを整理することにし、前回委員会で決定した「国際関係学教員に期待される専門性」と文言面・内容面の重複は極力避け、次のステップで「教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題」の具体的な提案をするので、あまり抽象的なまとめ方ではなく、次につながる具体性を持ったまとめ方として検討した。

以下に主な意見を列挙する。

- ・国際社会と関わりをもって積極的に関与しなければならない。
- ・バーチャルなグループによる協働学修で学ぶ姿勢を身に付けさせなければならない。
- ・大学の枠を超えて複眼的な視野を持たせなければならない。
- ・事例問題を教員がどこまで用意できるか。他分野の教員にも呼びかけ、教材を大学として作るべきではないか。
- ・映像は、ニュース、特別番組などを再利用したい。現状は難しいが、NHK、民法、報道機関に対して、再利用できる仕組みを考えてほしいと発信していきたい。
- ・映像の再利用できるバックグラウンドがあると仮定して、教員にはどのような教育力が必要か。
- ・学びの場を作って問題を提起し、国際関係と自分との関連付けさせる工夫が必要。
- ・学生が主体的に自分との関連付けを習慣的に身に付けさせなければならない。
- ・どんな手段でもコミュニケーションして、自分の持っている価値観を相互に理解しながら学び合うことが必要。
- ・多くの教員に協働して参加してもらえるように、ネット上で授業の重要性をアピールしていくべき。
- ・真剣に国際社会の問題と向き合う。学識をふるに使う呼びかけ、共感してもらう。
- ・社会のシンクタンクでなければいけない。教員だけでなく学生も一緒に社会の問題を考え、社会に発信していく。
- ・知を結集させて社会のシンクタンクのような問題に国際関係学の観点から取り組む、推進していくための説明力がないと色々なことができないのではないか。

- ・ 仲間の教員、学生にどう呼びかけるか。発信力。インパクト性が重要。
- ・ コミュニケーションの場面で使用するため、最新の I C T に精通していなければならない。
- ・ 共生社会。地球社会での支え合い。世界も他国のことを学んで振り返っている。
- ・ 世界の有識者などとの結びつけ、コーディネート力が必要。
- ・ 学際的な幅広い視野で主体的な学修ができるようなモチベーションをつけさせる。

などと意見が出され、教育改善モデル実現に求められる教育力として6項目にまとめた。

#### V. 今後の予定

次回：7月23日（月）11：00～

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

検討事項：教育力を実現するための FD 活動と大学としての課題  
学士力の解説

以上